

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

Inclusive Leadership Program

インクルーシブ・ リーダーシップ研修

》》 3日間(2泊3日) 《《

多様性と多様な人々を受け入れ、
その違いを新しい価値・力として
組織の力に変換できる
インクルーシブ・リーダーシップ人材
の養成プログラムです。



研修の目的とねらい

■多様性を組織の力へと導く「インクルーシブ・リーダー」の育成

急速に複雑化・多様化する世界に適応し、活躍することのできる人材育成は、多くの企業で課題となっているものの具体的な育成方法が未だ確立されておられません。特に日本企業においてはその前段となるD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)理解・推進そのものがまず現状の課題となっている企業も多く、APUでは、2011年からAPUの多文化環境にて異文化適応力、ダイバーシティマネジメントに関する知識・スキル、英語運用力の向上をはかるグローバル人材養成プログラム(GCEP)を展開しています。2019年にはCIL(インクルーシブ・リーダーシップセンター)を設置し、「インクルーシブ・リーダー(多様性を組織の力に変換できるリーダー人材)」の教育・実践・研究拠点として取り組みを始め、これまでの「多様

性理解と個の力量形成」から「多様性理解と個の力量形成を通じて、組織の力を高める人材の育成」を進めています。本プログラムは、多様な人々を受け入れ、その違いを新しい価値・力として組織の力に変換できるインクルーシブ・リーダーシップ人材を育成する企業向けプログラムとして設計しており、インクルーシブ・リーダー(グローバル人材の力量+多様性を組織の力に変換できる力を持つ人材)の育成を目指しています。急速に複雑化・多様化する世界で活躍できる変化に強い人材が、多様な人々・多様な働き方に対応し組織・成果へ貢献し、組織としても変化に強く柔軟に対応ができるようになり、変化の速い現在の社会に適応し続けることができることをプログラムの目的としています。

インクルーシブ・リーダーに求められる要素

多様性や違いを理解し歓迎できる
多様性とインクルージョンへの理解

異なる意見や新しいアイデアを歓迎できる
イノベーション
クリエイティブシンキング

他者を受け入れられる
他者受容性
他者の考えを言語化できる

自己理解ができている
自己受容性
自身のCQ*を理解し課題を言語化できる

多様な人々と協働ができる
コンフリクトマネジメント
チームマネジメント

*CQとは…多様な文化的背景に効果的に対応し協働する能力のことです。(異文化適応力とも言われます。)

研修
日程案

DAY 1

インクルーシブ・リーダーに関する理解を深める

……… 研修場所 ………
太陽の家

……… AM ………

各地から別府へ集合

……… PM ………

1 講義：テーマ
「多様性を自社の力にするために必要なこと(現状と課題)」

2 ワーク：テーマ
「What is Inclusive leadership」
・学生へのインタビュー
・インタビュー結果も交えてディスカッションを行う
・発表&グループワーク

3 講義：テーマ
「多様性を包摂する共生社会」
講師：
太陽の家 理事長 山下 達夫 氏

4 太陽の家 講義：テーマ
「様々な障がいについて知る」

5 太陽の家 グループ会社 見学
太陽ミュージアム、三菱商事太陽株式会社、エフサステクノロジーズ太陽株式会社

DAY 2

多様な人々との協働を体感する

……… 研修場所 ………
オムロン太陽

……… AM ………

6 講義：テーマ
「ダイバーシティ&インクルージョン戦略」
講師：
オムロン太陽 代表取締役社長 辻 潤一郎 氏

……… PM ………

オムロン太陽 提供
7 ワーク：テーマ
「様々な障がいを持つ方とのコミュニケーションを学ぶ」
マイノリティ研修
(車椅子、手話などの体験含む)
・多様な人々との協働を体感する
・自身がマイノリティな立場になったことで、マイノリティな立場に立った気づきを得る

DAY 3

多様な人々との協働を体感する:違いを歓迎する

……… 研修場所 ………
APU

……… AM ………

8 講義：テーマ
「違いを受け入れ、歓迎する：異文化理解/イノベーション(Creative thinking)」

……… PM ………

9 研修の振り返り



APUだからこそできる研修

■世界と地域をつなぐ「多様性のまち別府」での研修

別府市は11万人の人口に約110の国・地域から5,000人以上の外国人が暮らしています。まさにグローバルとローカルが同時に進行しているグローカリゼーションの街なのです。いろんな国の文化、宗教、性別、信条、価値観など相互に理解を示すダイバーシティな街「別府」。また、源泉数と湧出量日本一の温泉王国で、多くの観光客が訪れます。そんな国際観光都市であるため、ユニバーサルツーリズムの実現も目指しています。街を歩けば留学生に出会い、バリアフリーの施設で楽しくお話しする人たち、そんな多様性を持った人たちが交わる街だからこそ、新たな価値が生み出される場所でもあります。そんな魅力ある別府の街で研修を実施します。

世界中から教職員・学生が集まるAPU

多文化共生型キャンパス 立命館アジア太平洋大学(APU)

APUは、「自由・平和・ヒューマンイズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、2000年4月1日、大分県別府市に開学しました。現在、アジア太平洋学部、国際経営学部、サステイナビリティ観光学部の3学部にて約6,000人が在籍しています。学生の約半数は世界110以上の国・地域から日本へ学びにきた国際学生です。また、教職員の約半数も外国籍で、授業の95%は日本語と英語の両方で開講され、英語で専門分野を学ぶことができます。英語だけではなく数多くの言語が飛び交い、さまざまな文化や考え方が交差する多文化共生キャンパスは常に世界を感じながらD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の重要性を日々学べる環境です。



国際教育寮 APハウス

互いの生活習慣や
価値観の違いを知る

学び合い
助け合う心を養う

ルールを作り
学生スタッフが運営

イベントを通じて
交流を深める



世界各国・地域の国際学生と日本人学生が共に暮らす国際教育寮「APハウス」では、約1,600人が生活しています。APUに入学する国際学生は、日本の生活習慣やルールを学ぶため、入学1年目をキャンパスに隣接する寮で過ごします。APハウスには学生の成長を支援するために教職員を配置しているほか、各部屋には、ベッド、冷蔵庫、洗面・トイレ、インターネットが完備されています。また共同のキッチン、個別シャワー施設、洗濯機・乾燥機もあり、APハウスコース、ラウンジも完備しています。

立命館アジア太平洋大学 インクルーシブ・リーダーシップ センター(CIL)

CILは、インクルーシブ・リーダーシップの学術的研究、教授法、及び実践方法について探求・推進しています。CILの目標は、輝かしい、持続可能な未来に向けて果敢に挑戦をするインクルーシブ・リーダーのネットワークを構築することです。そして、研究活動や議論、ワークショップを通じてCILは専門家や学生に対して、インクルージョンを推進する原動力となり、解決策の創造に参画し、ダイバーシティの持つ可能性を解き放つ力を備えさせることを目指します。



CILセンター長
立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 准教授
篠原 欣貴

社会福祉法人 太陽の家

太陽の家は障がいのある人が働き、生活する施設であり、地域社会の一住民として普通に暮らしています。1965年の創立以来、障がいのある人の働く場づくりに取り組み、多くの人が社会復帰しています。たとえ身体に障がいがあっても働く能力は関係なく、太陽の家では、仕事や生活の場においてユニバーサルな環境づくりに努めています。また、日常生活で常に介助を必要とする重度の障がいのある人も地域と交流を深めながら生活を楽しんでいます。障がいのある人にとっての太陽でありたい、それが太陽の家の願いです。



社会福祉法人 太陽の家
理事長
山下 達夫 氏

オムロン太陽株式会社

オムロン太陽は今から50年以上前の1972年に、太陽の家を設立した中村裕先生とオムロンの創業者である立石一真の出会いと「想い」の共鳴によって生まれました。障がいのある人と共に働くためには、障がいを捕う工夫や配慮が必要ですが、その先にある本質的な課題は互いの「個性」を尊重した上での協働をどう実現するかにあります。障がい雇用自体の持つ社会的な意義はもちろろん、そのことを通じて多様な人々との協働の困難さや、それを克服するには具体的にどうということかという問いに対する気付きを提供できればと考えております。



オムロン太陽株式会社
代表取締役社長
辻 潤一郎 氏

募集要項

インクルーシブ・リーダーシップ研修 3日間(2泊3日)

研修場所 別府市内 (APU、社会福祉法人 太陽の家、オムロン太陽株式会社)

研修費用 **440,000円**(税込) / おひとり

※研修費用に含まれるもの: 宿泊費(国際教育寮APハウス2泊分)、APU⇄研修会場間の交通費。

※ご出発地から別府までの往復の交通費及び研修期間の食事は、ご参加企業様でご負担をお願いします。

募集人員 各回**10名程度** (最少催行人員 5名)

申込方法 下記ホームページより

<https://www.apu.ac.jp/home/business/content12/>

研修生の声

研修生 Y様

インクルーシブ・リーダーシップ研修では、マイノリティとしての立場を体験し、意思疎通の難しさや、言葉が通じない状況での恐怖を実感しました。

その中で、言葉以外のコミュニケーション手段が多様に存在することを学ぶ一方、最も大切なのは「わかり合おうとする姿勢」であると強く感じました。

振り返ると、これまで私は「わかってあげる」「わかってもらえる」という一方的な姿勢で仕事をしていたことに気づかされ、日々の関わり方を見直す契機となりました。



研修生 K様

D&Iを単なる理念としてではなく、組織の成長戦略として捉える視点を学ぶことができ、大変有意義な研修でした。

太陽の家グループ会社の見学では、私の置かれた環境でもすぐに実践できそうな障害の有無に関わらず能力を発揮できるハード面、ソフト面両方のさまざまな仕組みがあり、多様性の力を実感しました。

今回は障害や異文化という多様性がテーマでしたが、その他の異なる性別、価値観、経験などの多様性にも応用できるヒントが得られました。

全体を通じて、相手を理解しようとする姿勢や、安心して働ける職場環境づくりの重要性を認識し、その実践への糸口が見えた貴重な体験となりました。

研修生 S様

「インクルーシブ・リーダーシップ」という言葉について、これまでは漠然とした理解しか持っていませんでしたが、今回の研修を通じて、その概念を体系的に学ぶことができました。多様性を認識し、それを実践に結びつけることができれば、組織の結束力が高まり、メンバーのモチベーション向上にもつながることを理解しました。また、障がいのある方々との交流を実際に体験する中で、これまで自分が無意識のうちに距離を置いていたことに気づかされました。

研修を通じて、自ら積極的に声をかけ、関わっていくことで初めて本当のコミュニケーションが生まれるのだと感じました。偏見や思い込みといった感情を取り払い、互いに理解し合える環境の大切さを学ぶことができた、非常に有意義な研修でした。



【主催・お問い合わせ】

立命館アジア太平洋大学
アウトリーチ・リサーチ・オフィス 戦略企画チーム
E-mail: gcep@apu.ac.jp
〒874-8577 大分県別府市十字原1-1

Shape your world

APU

Ritsumeikan
Asia Pacific University

CIL

APU Center for Inclusive Leadership
インクルーシブ・リーダーシップセンター

【協力】

社会福祉法人太陽の家、オムロン太陽株式会社、ソニー・太陽株式会社、ホンダ太陽株式会社、三菱商事太陽株式会社、エフサステクノロジーズ太陽株式会社